

## 足利高校時代の思い出

開倫塾 塾長  
林 明夫

足利高校では、大阿久基次先生のクラスで三年間同じメンバー、アイウエオ順の同じ席次で過ごした。

卒業した年は、東京大学の入試がなかったので、同じクラス、同じ学年から卒業の年に東京大学へ進学した同級生は誰もいない。ただ、二年前に久しぶりにクラスの同窓会を開いたら、同じクラスから医学部に 6 名進学し、現在、足利市内で開業し大活躍している同級生が 3 名もいた。司法試験に合格し、裁判官になった同級生もいた。日本不動産鑑定士協会の会長や、日本ペットボトル協会の会長もいた。シュミレーションゲーム「信長の野望」や「三国志」を世に出したコーエーの創業者で、クリエイターの「シブサワ・コウ」こと、襟川陽一君も三年間同じクラスだった。別のクラスには作詞家の売野雅勇君もいた。



私は、新井衛君(経済学部)、襟川陽一君(商学部)とともに、現役で慶應義塾大学法学部法律学科に進学したが、大学入学後、学力レベルは足利高校の方がはるかに上だったことに衝撃を受けた(高校時代にもっと勉強しておけばよかったと、大いに反省した)。



なぜ足利高校は、同じクラスから医学部に 6 名も進学し、日本や地元の各分野で大活躍する人物を育てたか。今になって考えれば、文科系も理科系もよく本を読んでいたからだと思う。三年間、現国を担当した倉沢先生は、本は全集で読むこと、本は最後まで読むことを言い続けた。全集とまではいなくても、文科系も理科系もよく本を読んだ。大学生が読む本を手に行っているクラスメートもたくさんいた。

当時、足利高校の正門の近くに、小さな体育館くらいの大きさの図書館があった。私は、なぜかその図書館が大好きで、学校に行く日で図書館に行かない日はないくらいだった。図書館好きは私だけでなく、たえず多くの生徒でごったがえしていた。一番驚いたのは、何人かの先生方が、図書館で生徒と一緒に勉強していることだった。眠る時間以外は勉強している生徒が多かったため、足利高校の先生方も相当勉強しないではすまないのだなと思った。



修学旅行は、長崎や阿蘇山、別府などを巡る足利高校初の九州旅行だった。行きは博多まで新幹線、帰りは大分から神戸までフェリーと、人生初の長旅を皆、大いに楽しみ、高校時代最大のよい思い出となった。(先生方はさぞ準備や引率が大変だっただろうと、皆、感謝していた)

授業で一番印象に残っているのは、倫理。一学期に日本や世界の思想家をクラス全員に割り振り、二学期以降に順次発表させるというものだ。私は、江戸時代の思想家、荻生徂徠(おぎゅうそらい)を担当。「政談」や丸山真男の著作にまで手を出したが、しょせん高校生、なかなか理解できず、悪戦苦闘して発表を終えた。だが、同級生のみならず、担当した先生までが舌を巻くほど立派な発表をした同級生もいた。この発表のおかげで、思想史が好きになり、大学に入ってから法思想史のゼミに入ったり、今でも日本や欧米、中国、インド、イスラムをはじめ世界各地の思想家の本を、少しずつ読むきっかけをつくって頂いた。



高校の勉強も、世の中に出て随分役に立つものだと思う昨今だ。

(2021 年 1 月 18 日)